

【アームストロングゆかり氏への旭日単光章勲章伝達式】

山上大使祝辞

令和4年12月7日（水）

於：大使公邸 17:00～

皆様、こんにちは。

本日はアームストロングゆかり会長への勲章の伝達式にお集まり頂きありがとうございます。

まずは、アームストロング会長、旭日単光章のご受章、誠におめでとうございます。

今般の叙勲の理由となりました功績につきましては、ここにご列席の皆様は十分にご存じのこととは思いますが、せっかくの機会ですので、改めてご説明申し上げます。

アームストロング会長は、平成9年に、当地で唯一の日系団体となるキャンベラ日本クラブ（C J C）の設立において中心的役割を果たし、草創期のC J Cを、会長として11年間引っ張ってこられました。その後、後身に会長職を委ねましたが、この9月から皆様のたつての要請を受けて、再び会長としての重責を担われております。

アームストロング会長のリーダーシップと統率力のもと、C J Cは、当地在住の日本人や日系人の方々が親睦を深めながら助け合いを行っていく場として、大変重要な役割を果たしてきました。

先日、岸田総理がパースを訪れました。その際、アルバニー州首相は、首相に就任してからほんの5ヶ月しか経っていないが、その間に4度も岸田首相とお会いした、これはオーストラリアの各州の首相と会った回数よりも多いと言っていました。まさに日豪関係がかつてなく良好であることを示した一言です。貿易や投資だけでなく、人的交流や安全保障協力まで、両国の協力の幅は広がっています。日豪双方が相手を「この地域における最高の友人」と認める関係が築かれてきたのです。

振り返って見ますと、戦争の傷跡がまだ癒えない一昔前、多文化共生主義を掲げる前のオーストラリアにあっては、寂しさや心細さを覚えたり、あるいは愉快でない体験をされた日本の方も少なくなかったとうかがっております。特に、キャンベラのような日本からの直行便もなく、

日本人社会も大きくない土地においてはなおさらだったのではないかと思います。

こうした中でご家庭を持ち、子育てをされながら通訳としても活躍されてきたアームストロング会長のご苦勞も並々ならぬものであったと思います。であるからこそ、同胞の方々に共感の目を向けられた。C J Cの設立でどれだけの方々が意を強くされたか、想像に難くありません。

ちなみに、通訳ということであれば、私は何人もの在留邦人の方々から伺っておりますが、アームストロングさんは、当地における英語通訳、日英通訳の第一人者としてご活躍されてきて、2018年、安倍総理がダーウィンにいられた際ですが、実は私は経済局長として総理大臣に同行していたのですが、その際の安倍総理とスコット・モリソン首相との通訳をされたと伺っております。

このたびの叙勲は、まさにそのようなアームストロング会長の長年にわたるご貢献に着目したものです。

C J Cはキャンベラ日本語学校、サポートネットワークなど活動の幅も広げて、きめ細かく日本人や日系人の方々を支える活動を続けて来ました。更には、地元の様々な行事に参加して日本文化の紹介や親善活動も積極的に行い、この地における日本人・日系人コミュニティに対する大変温かい眼差しを育てることに大きな役割を果たしています。C J C会長職に加えて、日本語学校の校長、サポートネットワークの代表など実に様々な役割を担ってこられたアームストロング様のリーダーシップ、そして共に力を尽くしていられた皆様方に、ここに改めまして深甚なる敬意を表します。

なお、アームストロング様の功績について語るにあたり、日豪関係の将来を担うご子息、シロウさん、セイジさんを育てられたことに、ぜひ明記しておきたいと思います。特に、当地キャンベラをベースに日豪関係の発展に奔走しているシロウさんと当館の館員とが、時にプロジェクトを共に進めるパートナー、時に切磋琢磨すべき論客として、日頃から緊密に連携をしていることは慶賀の至りです。

アームストロング会長が海を渡ってオーストラリアにいられてから40年以上の歳月が経ちました。いまやご子息が日本とオーストラリアを結ぶ架け橋となって活躍している姿を母親としてご覧になって、感慨も

ひとしおなのではないかと拝察しております。

それでは、アームストロング様、加藤様のこれまでのご尽力に敬意を表し、引き続いてのご活躍、そしてご健康・ご多幸を祈念しつつ、改めまして、今般の授賞にお祝いを申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。

令和4年12月7日
在オーストラリア日本国大使
山上信吾